

ロシア

鮮明になる減速傾向

ロシアの2013年上半期の実質GDP成長率は前年同期比1.4%であり、昨年後半からの減速傾向が一層明らかになっている。特に目立つのは、投資の冷え込みである。1～9月の累計で、対前年比1.4%減少した。ただし、投資の中でも住宅建設投資は好調で、同期間の供用開始住宅床面積は12%の増加を記録した。したがって、政府投資及び民間企業の設備投資などが大きく落ち込んでいるものと推測される。鉱工業生産も停滞、減少傾向にあることから、企業の投資意欲が減退して、さらに冷え込んだ状態が続くものと思われる。

また、外需も力が弱い。1～8月の輸出は対前年同期比1.9%減（国際収支ベース）だったのに対し、輸入は3.1%増（同）で、黒字幅が縮小している。主要輸出品目である原油の輸出は、同期間に量で1.7%、金額で5.6%減少した。輸入では、全体の約半分を占める機械・設備・輸送機器の輸入額が1.6%減少したものの、食品・農産物、化学品・ゴム、繊維・衣料品・靴、金属・金属製品などが、価格上昇もあって、軒並み輸入額が増加した。

こうした中、頼みの消費も伸びが鈍化している。公定料金の引き上げなどによって、実質可処分所得の伸びが抑えられていることが一つの要因である。さらに、未払い賃金の額も、10月1日現在で対前年同期比18.3%も増加した。家計防衛的な志向が貯蓄性向を高めており、1～9月の家計収入に占める貯蓄の割合は前年同期比0.6パーセントポイント増加して8.8%となった。同期間の乗用車輸入台数が21.6%もの大幅減少を記録していることなどにも、不急の消費を抑えるといった形での消費マインドの低下が表れている。

総じて、企業も家計も先行きに対してあまり明るい展望を持っていないのではないと思われる。

中期経済見通し

経済発展省は、毎年9月に3年間の中期経済見通しを発表している。これは、9月から年末にかけて国会で審議さ

れる中期予算の議論の前提材料となるものである。

今年発表された見通しによれば、2014年から3年間のGDP成長率は、それぞれ3.0%、3.1%及び3.3%とされており、2014年、15年に関しては1年前の予測を1パーセントポイント以上も下方修正した。昨年見通し発表以降、景気が悪化していることを考慮すれば、下方修正は順当と言える。ちなみに、今年の成長率はわずか1.8%にとどまるとの予測である。

鉱工業生産は、3年続けて2%台という低い伸びになると見込んでいる。これに対して、小売売上高は4%台、サービス売上高は2～3%台の増加率と、少し高めの数値となっている。さらに、固定資本投資については、2014年は3.9%に留まるものの、2015年に5.6%、2016年に6.0%も増加するという強気の見通しを掲げている。つまり、ロシア政府としては、投資主導の経済成長の回復というシナリオを描いていることになる。

貿易に関しては、2012年実績に比べた2016年の輸出額は1.9%減少し、輸入額は同期間に14.3%増加するとの見通しである。これに伴い、貿易黒字は1,679億ドルから1,339億ドルへと2割程度減少する。なお、ロシア産原油の代表指標である“Urals”の価格は、100～101ドル/バレル（2013年の平均価格は107ドルとの見通し）との前提が置かれているほか、非CIS諸国向けの天然ガス価格も2013年の390ドル/千立方メートルが2016年には328ドルに低下するとの保守的な見通しとなっている。輸出構造の変化として、燃料・エネルギー資源の比率が減少して、他の製品が増加するとの見通しを示している。輸入に関しては、国内投資の活発化に伴い、機械などの投資財の輸入が増えるとの見方である。

全体に通底しているシナリオは、国内生産基盤への投資が進み、競争力のある製品が生産できるようになることで、資源輸出への依存が弱まり、外国向けの製品輸出が増加しつつ、国内では輸入代替が進むというものである。話としては美しいが、これまで実現できなかったことが急に実現できるようになるとは考えにくい。ましてや、景況感が落ち込んでいる中での民間企業投資の増加は難しく、画餅に帰すリスクは大きい。

(ERINA調査研究部主任研究員 新井洋史)
(対前年同期比)

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2012			2013			2013		
								1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	7月	8月	9月
実質GDP	8.2	8.5	5.2	▲ 7.8	4.3	4.3	3.4	4.8	4.3	3.0	1.6	1.2	—	—	—	—
固定資本投資	16.7	22.7	9.9	▲ 16.2	6.0	8.3	6.6	16.5	10.5	5.3	0.1	▲ 1.7	▲ 1.2	2.5	▲ 3.9	▲ 1.6
鉱工業生産高	6.3	6.8	0.6	▲ 9.3	8.2	4.7	2.6	4.0	2.3	2.5	0.0	0.3	▲ 0.1	▲ 0.7	0.1	0.3
小売売上高	14.1	16.1	13.5	▲ 4.9	6.3	7.0	6.3	7.9	7.4	5.6	4.1	3.6	3.8	4.4	4.0	3.0
実質可処分所得	13.5	12.1	2.3	2.1	4.2	0.8	4.4	1.6	4.4	4.9	6.2	3.4	1.7	4.2	2.1	▲ 1.3
消費者物価*	9.0	11.9	13.3	8.8	8.8	6.1	6.6	1.5	3.2	5.2	1.9	3.5	4.7	4.4	4.5	4.7
工業生産者物価*	10.4	25.1	▲ 7.0	13.9	16.7	12.0	5.1	3.0	0.4	9.4	0.9	▲ 0.9	5.4	1.1	3.9	5.4
輸出額(十億ドル)**	301.2	351.9	467.6	301.8	397.1	516.7	524.5	131.1	129.8	124.8	126.5	128.2	—	43.8	42.1	—
輸入額(十億ドル)**	137.8	199.7	267.1	167.5	228.9	305.8	316.9	68.8	77.0	81.9	72.4	79.5	—	27.9	25.3	—

*前年12月比。

**税関統計ベース。

***斜体は暫定(推計)値。

(出所)『ロシアの社会経済情勢(2013年3、4、9月号)』ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料